岐阜新聞真学塾

出題　蛍雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

今回は標語がテーマ。下の文が消防や交通安全の標語になるように言葉を入れてみましょう。

① 火の用心　マッチ一本　＿＿＿＿＿

② ゆずりあい　＿＿＿＿＿　高齢者

豆知識 雑学コラム　標語 なぜ五七調？

標語とは「警察や消防などが守ってほしい規則や行ってほしい行動を表した短文」のことですね。大きな道路を走っていると電光表示板に標語が映し出されるなど日頃から目にする機会がたくさんあります。また、面白い標語はニュースになったり、ネットで紹介されたりして評判になることもありますね。

一般的に、標語といえば、五七五のリズムで書くものだと考えて、今回の問題も「火の用心　マッチ一本　火事の元」や「ゆずりあい　みんなもいつか　高齢者」と答えた方も多いと思います。では、なぜ五七五のリズムで書くのでしょうか、見ていきましょう。

まず、五七五と聞くと俳句や川柳を連想するかもしれません。さらに和歌の音の数も、五七五七七で前半部分が五七五ですね。このように五七五のように五つの音のかたまりと七つの音のかたまりで作るリズムを五七調や七五調と呼びます。和歌が奈良時代の万葉集のころから詠まれていることを思うと、このリズムは1000年以上前から日本語の詩に使われているものだと分かります。

また、和歌以外にも知らず知らずのうちに五七調や七五調を口に出していることがあります。例えば、ことわざの「飛んで火に入る夏の虫」や、蛍の光の歌詞「ほたるのひかり　まどのゆき　ふみよむつきひ　かさねつつ」などが七五調になっていますよね。つまり、五七調や七五調は古くから日本語に根付いたリズムで、日本人にとって一番なじみのあるリズムだと言えるのです。

標語は面白いだけでなく、言葉が頭に残って行動に移ってもらわないと意味がありません。だから、標語はなじみ深いリズムである五七五の五七調のリズムで書くことで頭に残りやすいフレーズにしているわけですね。

さて、五七調以外にも標語には、私たちの記憶に残りやすくするための表現の工夫がみられます。例えば、「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」には同じような言葉の使い方を並べる「対句」という工夫がされています。標語を見て、その中に書かれている決まりを心に留めて実践していくだけでなく、その中で使われている表現技法を覚えて実践してみてはどうでしょうか。

【解答】

① 火の用心　マッチ一本　火事の元

② ゆずりあい　みんなもいつか　高齢者